



なぎささん（右）が調理方法を手ほどき



親子で仲良く調理しました。

食材を無駄なくおいしく調理 親子で楽しくエコクッキング教室

食材を無駄なくおいしく調理する親子エコクッキング教室が、11月1日（土）、歴史文化伝承館で開かれ、参加した親子が八戸市の食育料理家なぎさなおさんから、食品ロスの少ない料理作りを学びました。

参加者は、なぎささんから、野菜の皮や切れ端を使い料理にうまみを出す野菜だし「ベジブロス」や、食材の切り方や料理の味付けを教えてもらい、「サバ缶の炊き込みごはん」や「ごちそう肉じゃが」、「紅玉とスチューベンのゼリー」など5品に挑戦しました。

子どもたちは、保護者の手を借りながらフライパンや鍋を使って調理した料理を口に運ぶと、「ジャガイモやニンジンの皮を切るのが難しかったけど上手にできた」、「休みの日に家族で料理を作りたい」と笑顔を見せ、親子で作った料理の味に大満足。なぎささんは「子どもたちには、小さいころから料理を作る経験を身に付けてほしいです」と話していました。

今回のレシピは町ホームページに掲載しています。

Topics

私たちが考えた条例を町の活性化へ 中学生が町の課題解決策を提言

11月12日（水）、鶴田中学校の3年1組の生徒32人が社会科学習の一環でまとめた町の課題解決策を役場議場で相川町長や各課長に提言しました。

生徒たちは、9月に開催された定例議会を傍聴し、町の課題を研究。インターネットを使い、情報を集めたほか、担当課の説明を参考に、町の振興プランとして、「健診・病院・お早めに」条例や「Smile Sun Sun～子どもを産むなら鶴田町～」条例など、6つの条例案をまとめ上げ、議場で提言しました。

「病院に行きやすいように、休日診療を設定してはどうか」、「第1子から第3子までの保育料を無料にしたらどうか」といった生徒たちの提案に、相川町長は「皆さんの活発な意見を参考に、今後の町政に生かしたい」と答えていました。

参加した太田和樹君は、「いろいろ調べていく中で、鶴田町のことを知ることが出来た。私たちが考えた提案がきっと町の活性化につながると思います」と話していました。



①

①中学生からの提案に耳を傾け、メモをとる相川町長



②



③

②議場で町の課題解決策を提案する生徒
③議場では、スクリーンを使い、町長や各課長に条例案を示しました。

木筒分団へ消防車両が引き渡されました

鶴田町消防団（下山正彦団長）では、総務省消防庁より無償で貸与された、救助資機材搭載型小型動力ポンプ積載車1台を木筒分団（棟方秀人分団長）へ引き渡しました。11月21日（金）に行われた引渡式で、棟方分団長は「搭載資機材の機能を駆使できるよう、取り扱い技術の習熟に努め、町民の信頼と期待に応えられるために、いっそうの教養や訓練に励みます」と誓っていました。



（人の動き）

11月30日現在（前月比）
人口 13,837人（－2人）
男 6,523人（＋3人）
女 7,314人（－5人）
世帯 5,361（－3）
出生 10人 転入 19人
婚姻 4組 転出 12人
死亡 19人

